

2024年 2月23日

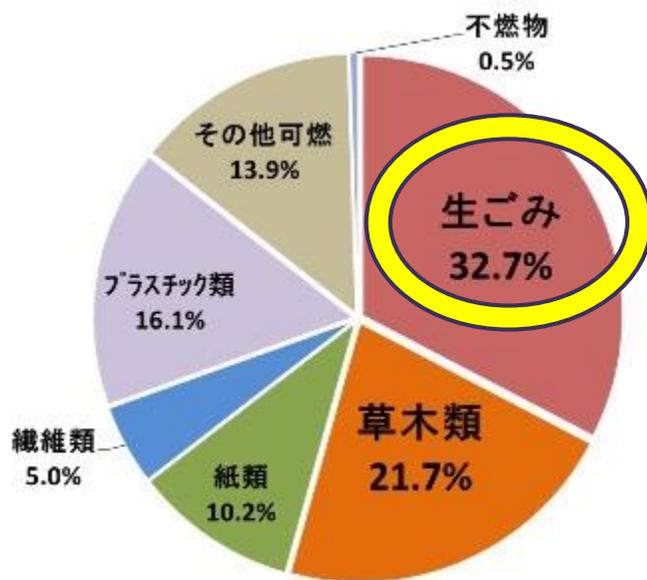
令和5年度 学生&高校生まちづくりコンペティション

野菜クレヨンを作って
"もったいない"をなくそう!!

八戸学院大学 加来ゼミ

事業の目的

青森県八戸市の令和3年度の家庭から排出された燃えるごみ



出典「八戸市のごみの色」

食品ロス削減のため廃棄野菜をつかってクレヨンを作る取り組み



幼少期から“もったいない”という気持ちを育むことができれば

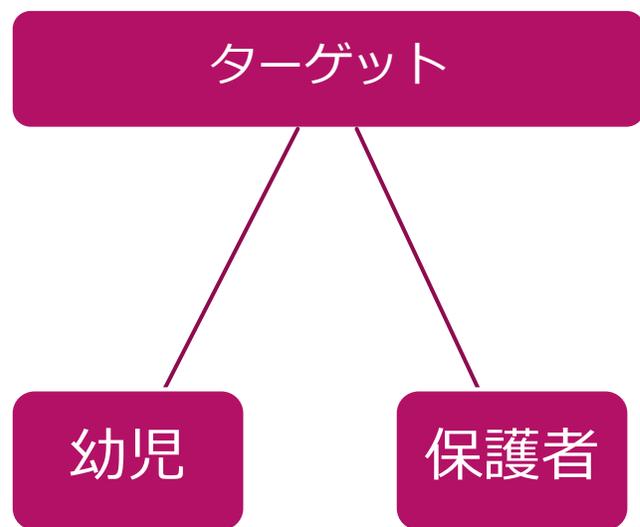


食品ロスの削減

環境問題に積極的

地域経済の向上の可能性

事業内容



親子が学んだ
後

パンフレットの作
成

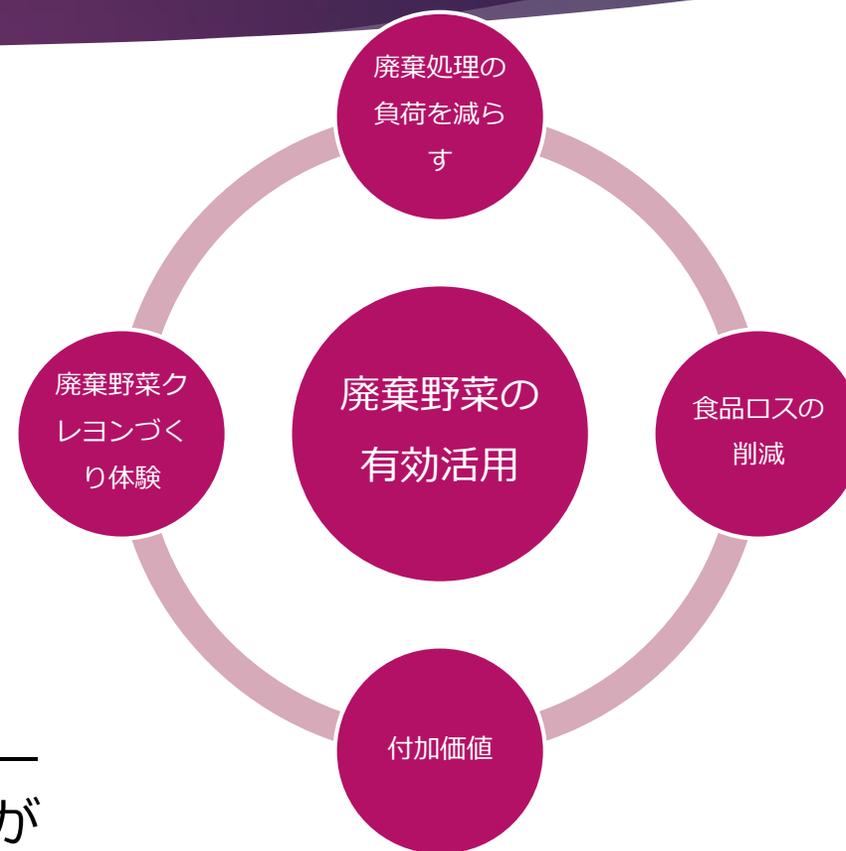


パンフレットの内容

- ▶ 主に、各色のレシピを記載した内容
- ▶ 食品の資源循環のお話
- ▶ 地産地消にまつわる経済的有効性についてなど
- ▶ 絵本形式でわかりやすく楽しめるように作成

事業をきっかけに多くの団体等が廃棄野菜でクレヨンを作る取り組みをおこなってもらっています。

さらに、これらの活動が、地域の関係者間のネットワークへと繋がれば、新たな経済循環を生み出し、付加価値が地域内で循環することにもなる可能性があると考えます。



クレヨン作成の工程

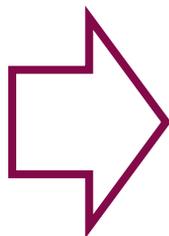


乾燥

粉末

成功作

失敗作



クレヨンづくり

パウダー

工程

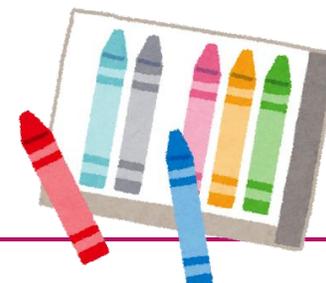
- 野菜をスライスする
- スライスした野菜を乾燥させる
- 乾燥させた干し野菜をすり鉢でパウダーにする



クレヨン

づくり

- 袋に蜜蝋を入れる
- 湯銭にかけてしっかり溶かす
- オリーブオイルを加えて溶かす
- 粉末色素を入れて割り箸でよく混ぜる
- 型に流し込み固まったら出来上がり



野菜の適正実験結果

野菜	乾燥	発色	総合
キャベツ	○	△	△
人参	◎	◎	◎
トマト	○	△	△
とうもろこし	×	△	△
紫芋	×	◎	○
カボチャ	○	○	○
ほうれん草	◎	◎	◎

八戸学院フェスの様子



はちがくフェスアンケートの結果

- ▶ Q 1 本日の取り組みは楽しんでいただけましたか
とても思う...50 まあまあ思う...1
- ▶ Q 2 家庭内でも野菜クレヨンを作ってみたいと思いましたが
とても思う...21 まあまあ思う...23 あまり思わない...7
- ▶ Q 3 廃棄野菜のクレヨン作りはどこが大変そうだと思いますか
①...11 ②...17 ③...33 ④...6 ⑤...6 ⑥...1
- ▶ Q 4 絵本は楽しく、わかりやすい内容でしたか
とても思う...27 まあまあ思う...8
- ▶ Q 5 この取り組みを他の方々にも広めたいと思いましたが
とても思う...32 まあまあ思う...18

時は来た、最高の笑顔が咲き誇る――

はちがくフェス HACHIGAKU FES
笑顔満祭

子ども部屋

2023.10

21 (土) 10:00~16:00 (北部航空音楽隊演奏 13:00~)

22 (日) 10:00~18:00 (模擬店~16:00) (花火大会 17:30~) ※雨天時延期

模擬店・赤十字屋・学科展示・ステージ発表 等

航空自衛隊 北部航空音楽隊演奏

※体育館をご利用される方は内服きをお持ちください。
※状況により内容の変更または中止となる場合があります。

たくさんのご来場お待ちしております。

はちがくフェスを実施してみたの感想

- ▶ 想定より人数がきて大好評
 - ▶ 親子以外に学生だけの参加者も
 - ▶ 事故もなく安全に対応できた
 - ▶ スムーズに行えた
 - ▶ 完成品が綺麗で試し書きせずに持ち帰る人も
-
- ▶ 課題点
 - ▶ 持ち帰れるパンフレットがあればよりこの事業の理解をしてもらえる



今後の活動

・「みどり戦略学生チャレンジ」に応募
 →みどりの食料システム戦略に基づいた取り組みを自主活動により活動をし続けていく

・活動
 →八戸学院大学まちなかラボやハッチ 年4回
 八戸学院大学フェス 二日間

活動があまりできなかつた。
 野菜、植物を使えないため美術館でできなかつたことと、ハッチは日程が合わなかつた。
 イベントののうはうは身に着けたので、来年度は反省点を活かして活動していきたい。

**【全国版・第1回】
みどり戦略
学生チャレンジ**

我が国の食料・農林水産業は、国内の食料安定供給や食生活を支える重要な産業です。一方で、生産者の減少・高齢化や地域コミュニティの衰退、地球温暖化や生物多様性の喪失などの様々な課題に直面しています。また、近年は、国内外のあらゆる産業において、SDGsや環境への対応が不可欠となり、持続的な生産・消費への関心が高まっています。

こうした状況を踏まえ、農林水産省では、2050年に向けて、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をインバプションで実現するための新たな政策方針として、2021年に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

戦略の実現に向けては、調達・生産・加工・流通・消費の各段階の幅広い関係者が一体となって環境負荷低減に取り組む必要があります。学生の皆さんは、2050年に我が国を担う中核世代であり、皆さんのこれからの取組に日本や世界の未来が懸かっています。

みどり戦略の主役として、日本の食料・農林水産業をリードするために、環境に配慮した取組にチャレンジしてみませんか。

●対象:
 ①高校の部
 (高等学校、高等専修学校、高等専門学校(3年生以下)の学生により構成されるグループ又は個人)
 ②大学・専門学校の部
 (大学、短期大学、専門学校、高等専門学校(4年生以上)の学生により構成されるグループ又は個人)
 *授業の一環、部活動、ゼミ・サークル活動等、参加形式は問わない。学校の垣根を超えたグループも可。
 *農業高校、農業大学校等、農業に関する教育機関に限らない。

●内容:
 ・みどりの食料システム戦略に基づいた取組を実践
 <具体例>
 調達:生産段階でのプラスチック削減、堆肥の活用
 生産:土壌分析やドローンを活用した化学肥料・化学農薬の低減、バイオ炭の農地土壌への投入技術
 加工・流通:環境負荷を低減した農産物の市場拡大
 消費:見た目重視の商品選択の見直し、食品ロス削減の仕組み作り
 ・取組概要を取りまとめたポスター・発表動画等を「学生チャレンジ」として各種イベント、YouTube配信等により紹介
 ・意見交換会等による参加チーム間の交流を予定

●募集期間:
 参加宣言:令和6年1月~5月
 取組実施:令和6年1月~10月
 取組報告:令和6年10月
 ポスター(A版縦長1枚)
 ※全国大会出場者はポスター発表動画(4分以内)を追加提出
 *優秀作品は表彰予定

<事務局>
 農林水産省
 大臣官庁みどりの食料システム戦略グループ(担当者:吉澤、大塚、菅原、船山)
 経営局就農・女性課(担当者:小池、星)
 ☎ 03-3502-8056(みどり局)、03-6744-2160(就農・女性課)
 ✉ midori-challenge@maff.go.jp

農林水産省 詳しくはこちら ▶

Ver.2.0